

職親プロジェクト
就労のための学習支援事業
2024 年度 活動報告書

公益社団法人
OMOIYARI プロジェクト

目次

I. 非行少年の再犯状況と事業の背景	5
1. 非行少年の再犯状況.....	5
2. 事業の背景	5
II. 目的と事業概要	7
1. 事業の目的.....	7
2. 事業概要	7
3. 支援対象者の状況(2025 年 3 月時点).....	7
III. 就労支援	9
1. 仕事フォーラム開催概要.....	9
2. 仕事フォーラム開催状況(2025年 3 月時点)	9
3. 少年の就労意欲・職親プロジェクト認知の変化	10
IV. 就労のための学習支援.....	12
1. 生徒アンケート.....	12
2. 学習支援	15

I. 非行少年の再犯状況と事業の背景

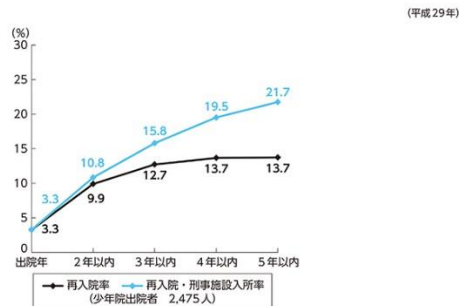
1. 非行少年の再犯状況

少年院再入院率は、2 年以内で 9.9%、5 年以内の再入院は 13.7% である。また、少年院再入院・刑事施設入所率は、2 年以内で 10.8%、その後も緩やかに上昇し 5 年以内では 21.7%にもなる。

法務総合研究所の研究部報告の再犯防止等に関する研究(2019)においては、再犯防止に向け、受刑者が刑務所を出所した後、①問題に主体的に取り組む意欲を持たせること、②周囲との良好な対人関係を構築・維持させること、③犯罪と関わりのない生活を送るための多様な資源を持たせること、④実体験に裏打ちされた自信を持たせることに留意点した適切な指導・支援が求められるとしている。

(令和4年犯罪白書より)

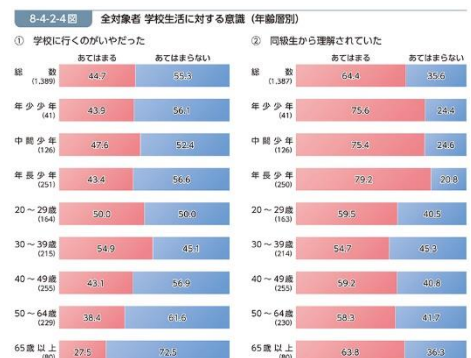
5-2-5-3 図 少年院出院者 5 年以内の再入院率と再入院・刑事施設入所率



注 1 矯正統計年報及び法務省大臣官房司法法制部の資料による。
2 「再入院率」は、平成29年の少年院出院者の人員に占める、同年から令和3年までの各年の年末までに、新たな少年院送致の決定により再入院した者の人員の比率をいう。
3 「再入院・刑事施設入所率」は、平成29年の少年院出院者の人員に占める、同年から令和3年までの各年の年末までに、新たな少年院送致の決定により再入院した者又は受刑のため刑事施設に初めて入所した者の人員の比率をいう。なお、同一の出院者について、出院後、複数回再入院した場合又は再入院した後に刑事施設への入所がある場合には、その最初の再入院を計上している。

2. 事業の背景

我が国の高等学校等への進学率は、98.7%であり、ほとんどの者が高等学校に進学する状況にある。(平成30年学校基本調査) その一方で、少年院入院者の25.3%が、中学校卒業後に高等学校に進学していない。また、非行等に至る過程で、または非行等を原因として、高等学校を中退する者も多く、少年院入院者の40.1%が高等学校を中退している状況にある。(平成30年矯正統計年報) 学力・学歴だけが出院後の再犯や就労の継続に直結するわけではないが、生育環境により適切な教育の機会が与えられていない、または低年齢の頃より学校生活での挫折を経験している少年も多く、そのことが、就労継続の土台として本来必要な、自己肯定感や自信の低さや自分で考える力の不足にもつながっていると考えられる。少年院在院者との会話でも「小学校1年生から授業についていけなかった」「5年生から不登校になり、勉強していない」などを聞く。少年院・刑務所入院者の学校生活に対する意識(令和4年犯罪白書より) 半数近くが「学校へ行くのがいやだった」と回答している。



注 1 法務総合研究所の調査による。
2 学校生活に対する意識の各項目が不正の者を除く。
3 「あてはまる」は、「あてはまる」及び「ややあてはまる」を合計した構成比であり、「あてはまらない」は、「あまりあてはまらない」及び「まったくあてはまらない」を合計した構成比である。
4 調査時の年齢による。
5 「施設」は、年齢が40歳の者を含む。
6 () 内は、実人数である。

出院後の少年を雇用した職親企業は、少年らの基礎学力の不足による状況把握力や発信力(コミュニケーション力)の弱さ、就労への目的意識・意欲や社会貢献に対する意識の乏しさ、自己肯定感が低いことによる信頼関係構築の難しさなどから、就労以前の関わりが必要ではないかという課題意識をもっている。

これらの課題解決のためには、出院前から出院後につながるプログラムの実施、またそのプログラムを通じて、少年院・職親団体・民間企業・メディアが一体となって1人の少年を支える仕組みの創出が必要と考えた。その一つとして、対象者へ“就労のための学習支援”と“職親企業による就労に向けた座談会など”をコラボレーションしながら実施するのが本事業である。

就労継続のためには、状況把握しながら少し先を見通し行動する力や、人対話をして仕事を進めていくコミュニケーション力が必要であり、そのために最低でも小学生卒業程度の基礎学力を就労前に培うことが重要だと考える。また、生育環境の中で健全な大人のロールモデルが極端に少ない少年も多く、在院中から良い職業人に出会い、社会に出る前に“職業観・職業の選択肢”を広げてあげることも少年たちへの大事な教育と考える。

少年院での学習支援と就労支援をコラボレーションして行う本事業は、「就労につながる基礎学力習得」「学習プロセスを通して、やると決めたこと(学習)を、主体的に努力したという経験に基づく自信や自己肯定感の獲得」「自分の頑張りを認めほめてくれる職親企業・大人への出会いと信頼」により、更生への想いを高め、上述のような就労継続に影響する課題の解決を目指す。また、職親団体にとっては、6か月間継続して努力をし、出院後の社会生活に前向きになっている少年を採用できる可能性が高まり、就労継続にもつながることが期待できる。

自分の壁を自分で越えていくことにより自己肯定感を高め、さらに良い大人と出会える機会を、多くの非行少年に届けていきたい。

Ⅱ. 目的と事業概要

1. 事業の目的

就労支援の一環として院内での公文式学習を実施し、就労支援と学習支援が連携することで、出院後の少年にとって一貫したより良い支援を届け、社会復帰をサポートする。矯正施設、職親企業、学習支援者がそれぞれの強み・特性を活かしながら、以下2点を目指す。

- ①学習を通じて対象少年の出院後につながる基礎学力と自己肯定感の向上をはかることで、社会復帰に必要な力を習得する
- ②支援期間中に継続して日本財団職親プロジェクトの職親企業および本事業関係者との接点を持つことによって、出院後の就労への意欲の向上、進路選択肢の広がり、および職親企業の認知拡大につなげる。

上記実現のために、本プロジェクトのスローガンを「成功への道～やればできる・自分でできる～」とした。

2. 事業概要

期間	6 か月
場所	加古川学園、和泉学園
対象	加古川学園、和泉学園に在籍している少年 プログラム説明会受講し、参加希望意思を表明した少年のうち、施設が選定した10名
内容	・公文式学習(週1回)＋・自室での宿題学習 ・職親企業による仕事フォーラム(全2回) ・修了式

3. 支援対象者の状況(2025 年 3 月時点)

①少年院別対象者

	加古川	和泉学園
1期	15 (うち修了 13)	10 (うち修了 10)
2期	10 (うち修了 10)	4(うち修了 4)
3期	10 (うち修了 10)	8(うち修了8)
4期	11 (うち修了 11)	
5期	12(うち修了 12)	
6期	10(うち修了9)	
合計	65 名修了 (うち 1 人は途中転院後再開)	22 名修了

※加古川1期生のうち 2 名は転院のため学習途中で終了。

※加古川6期生のうち 1 名は少年院側の判断で除籍。

② 出院後のつながり

	件数	内容
加古川1期	2	・就職希望の連絡→他企業に入社→職親企業に入社 ・就職希望の連絡→他企業に入社
加古川2期	4	・出院報告・お礼電話 ・就職希望(院内面接実施)→職親企業に入社→転職 ・出院報告・お礼電話 ・出院報告・お礼電話
加古川3期	1	・アルバイト希望の連絡→職親企業と面接
加古川4期	2	・相談あり ・職親企業に内定・勤務
加古川5期	1	・出院報告・職親企業にて勤務
加古川6期	1	・出院後に職親企業に内定

	件数	内容
和泉1期		
和泉2期	1	・出院報告
和泉3期	-	

Ⅲ. 就労支援

1. 仕事フォーラム開催概要

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者の出院後の進路に対する選択肢の幅が広がる ・職親企業の方に応援、価値付けいただき、学習者の自信・自己肯定感につながり、さらに意欲が増す ・職親プロジェクト、職親企業への理解が深まる
場所	加古川学園、和泉学園
対象	加古川学園、和泉学園に在籍している少年 少年院の状況により、学習支援参加者のみを対象にするケースや、在院生全員を対象にするケースなど様々
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・職親プロジェクトの紹介－活動の目的、意義、活動内容 ・会社紹介－仕事の内容、求める人材、大切にしている価値観など ・座談会－少人数のグループになって意見交換

2. 仕事フォーラム開催状況(2025年3月時点)

プロジェクト開始から現在まで、計15回の仕事フォーラムを開催。累計95社が参加。

年度	開催日	開催施設	参加企業
2022年度	6月24日	加古川学園	8社
	12月2日	加古川学園	6社
	2月3日	加古川学園	7社
2023年度	6月1日	加古川学園	7社
	7月27日	加古川学園	7社
	8月30日	和泉学園	6社
	11月22日	和泉学園	5社
	12月14日	加古川学園	6社
	2月22日	加古川学園	4社
2024年度	6月13日	加古川学園	7社
	8月22日	加古川学園	6社
	10月16日	和泉学園	7社
	12月12日	加古川学園	6社
	2月5日	和泉学園	6社
	2月13日	加古川学園	6社

3. 少年の就労意欲・職親プロジェクト認知の変化

仕事フォーラム参加者は、事後アンケートに回答する。仕事フォーラムへの満足度は非常に高く、参加を重ねていくことで、職親企業への理解や働くことへの意欲を高めていく。また、就労に関する気持ちの変化だけでなく、前向きで熱心な人や自分たちを支えてくれる大人との出会いが、少年たちの印象に残る。

(生徒たちの感想)

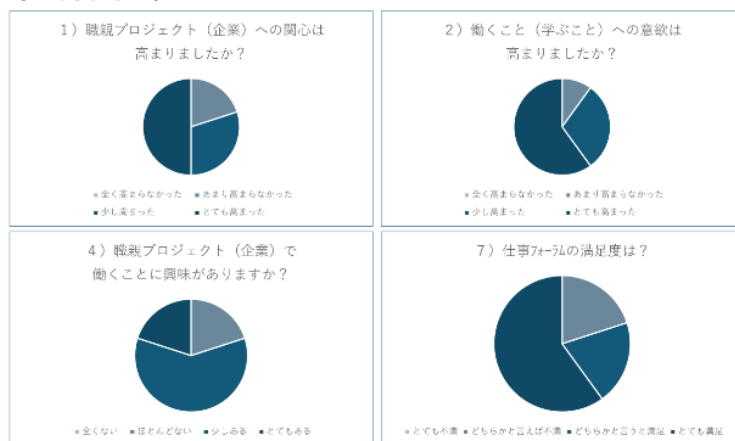
■加古川学園

- ・失敗も含めて経験はプラスにすることができる。
- ・自分の考え方に自信がなくて、行動に移せていなかったが、背中を押してもらえた。
- ・出院後、3日で行動する。
- ・恥ずかしがらず、嘘をつかず、本音で人を頼る。
- ・目標や夢を1人だけのものにせず、いろいろな人に助けてもらう。

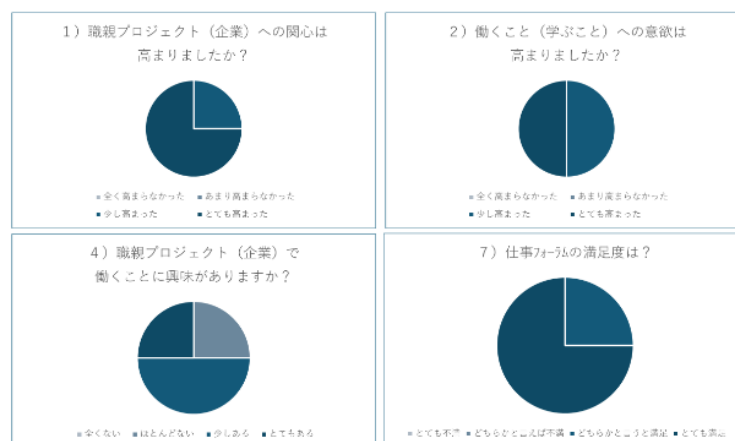
■和泉学園

- ・環境を変えること、その方法の1つが仕事をする事。
- ・出院してからどうしよう、という不安を乗り越える方法。
- ・これまで汚い・カッコ悪いと思っていた仕事について、感謝される仕事だとわかった。

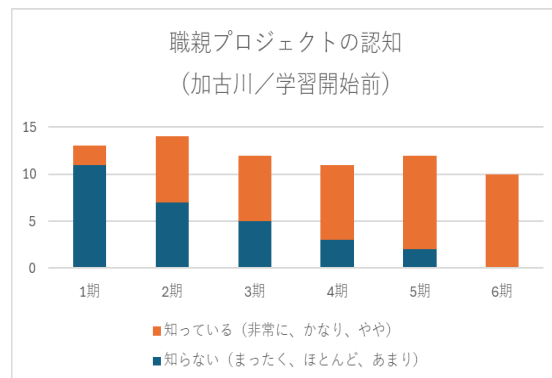
加古川学園第6期生 第2回仕事フォーラム (2025年2月実施)



和泉学園第3期生 第2回仕事フォーラム (2025年2月実施)



事業開始した2022年(1期生、2期生)は加古川学園全体で職親プロジェクトや職親企業の認知度が高くはなく、プログラム開始前アンケートでは約半数が「知らない」と回答していたが、事業継続につれて、施設職員含む少年院全体で職親プロジェクトや職親企業の認知が高まっている。2023年4月～の3期生以降は、プログラム開始前時点で、半数以上が職親プロジェクトを「知っている」と回答、2024年10月～の6期生は、プログラム開始前時点で全員が職親プロジェクトを「知っている」と回答した。



IV. 就労のための学習支援

1. 生徒アンケート

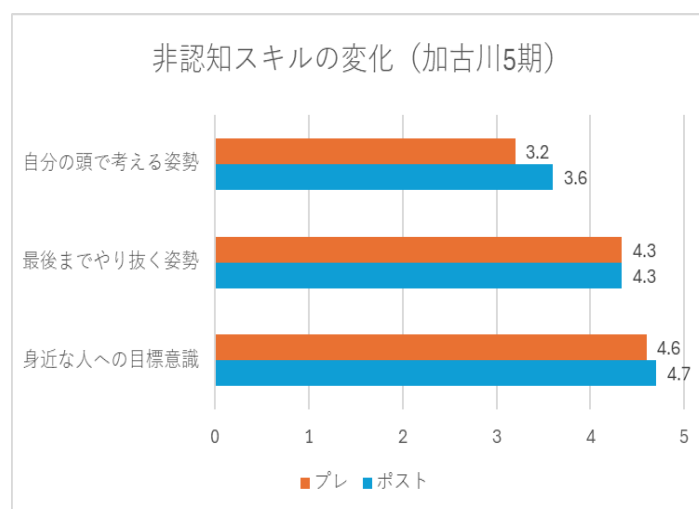
プログラム前後で同一の生徒アンケートを実施し、プレポスト比較を実施。

社会復帰の土台となる非認知能力を測るテストと、就労意欲や職親プロジェクトの認知を測るアンケートで構成している。アンケートは6件法を用いている。

(1) 非認知能力の変化

社会人基礎スキルの土台となる、非認知スキル-身近な人への目標意識・最後までやり抜く姿勢・自分の頭の中で考える姿勢の多くの項目において、良い変化がみられる。

6か月の数国の自習学習を通して、最後までやり抜く姿勢や自分の頭の中で考える姿勢がついたと考えられ、また、期間中2回の仕事フォーラムのなかで、憧れや尊敬できる大人、自分を受け止めてくれる大人と出会ったことで、身近な人への目標意識が高まったと考えられる。



(2) 前後の変化が大きい項目

21:何かをするとき、必ず計画を立ててから始めることが多い（+30.0%）

22:自分の考えや自分なりのやり方を考えることが好きである（+40.0%）

参考

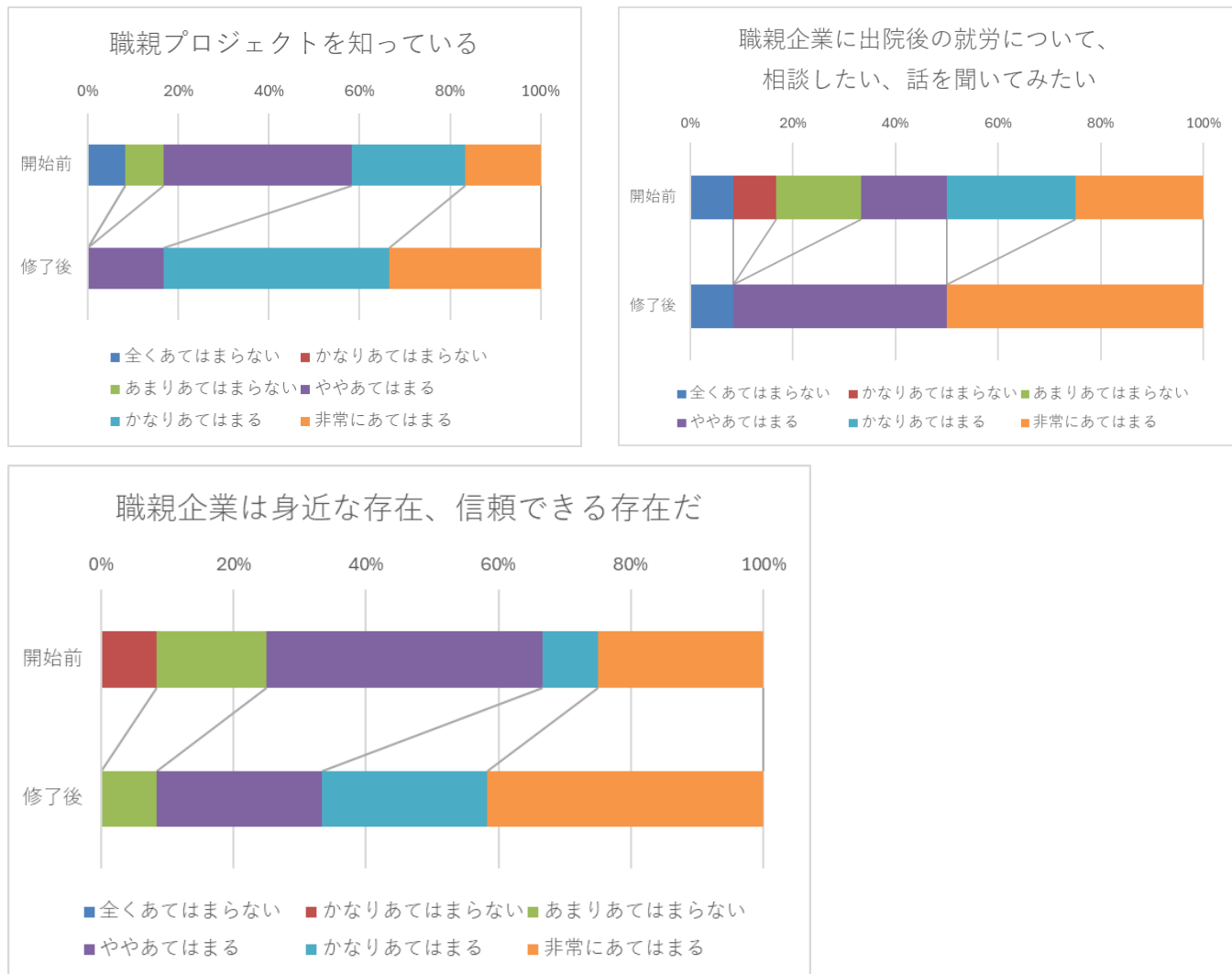
・加古川学園 5 期 プレアンケート／ポストアンケート 5・6回答率比較

5・6回答率	プレ	ポスト	比較
(1) 私は、長期間をかけて完成するような課題を与えられた時、やる気になる	30.0%	20.0%	-10.0%
(2) 私は、1日で終わるような課題を与えられた時、やる気になる	70.0%	60.0%	-10.0%
(3) 苦手なことを克服するより、得意なことを伸ばす方が良いと思う	20.0%	40.0%	20.0%
(4) 私はすべてのことがうまくできないと気がすまない方だ	30.0%	50.0%	20.0%
(5) 勉強することは、私にとって価値があることだと思う	50.0%	70.0%	20.0%
(6) 過去の経験から、目標を立てると、成果が出ると思う	90.0%	70.0%	-20.0%
(7) もっと知りたいと思うことがたくさんある	90.0%	100.0%	10.0%
(8) 生活の中で気になることは見たり聞いたりして調べている	70.0%	80.0%	10.0%
(9) 今の自分の学力レベルに満足している	0.0%	10.0%	10.0%
(10) 何事もあきらめずに取り組めば、いつかはできるようになると思う	80.0%	90.0%	10.0%
(11) 身近に目標とする人（憧れている人）がいる	70.0%	80.0%	10.0%
(12) 思ったようにいかない時、がんばって何とかしようとする方だ	40.0%	30.0%	-10.0%
(13) 買い物をする時、頭の中で計算している	70.0%	40.0%	-30.0%
(14) 私の算数・数学の学力レベルは高い方だと思う	0.0%	10.0%	10.0%
(15) ものごとに取り組む時に、効率的に考えることが得意だ	30.0%	50.0%	20.0%
(16) 失敗しても、いつかうまくいくはずだと思う	40.0%	60.0%	20.0%
(17) この人を越えたいと思う人が身近にいる	90.0%	80.0%	-10.0%
(18) 物事のルールや法則を探すのが好きだ	10.0%	30.0%	20.0%
(19) 失敗をくり返しながら、だんだん完全なものにしていけばよいと思う	70.0%	80.0%	10.0%
(20) 問題を解く時、頭の中で解き方を考えてから取り組むのが好きだ	10.0%	20.0%	10.0%
(21) 何かをするとき、必ず計画を立ててから始めることが多い	20.0%	50.0%	30.0%
(22) 自分の考えや自分なりのやり方を考えることが好きである	40.0%	80.0%	40.0%
(23) 計画を立てるときは、それまでの振り返りを参考にすることが大切だと思う	40.0%	50.0%	10.0%
(24) 何かをするとき、自分が立てた計画を確認しながら実行するようにしている	20.0%	30.0%	10.0%
(25) いったんやり始めたら、最後まで実行してみることが大切である	80.0%	70.0%	-10.0%
(26) 何かをするとき、スムーズに進むようにやり方を考えながら実行することが好きである	70.0%	60.0%	-10.0%
(27) 何かを実行した後、必ず結果を見直すことが大切だと思う	80.0%	50.0%	-30.0%
(28) 振り返るとき、他の人がどのように考えるのかを知ることが好きである	30.0%	10.0%	-20.0%
(29) 自分に間違いがあったとき、どうしてなのかその理由を考えることが多い	60.0%	40.0%	-20.0%
(30) 人は「計画を立て・実行し・振り返る」ことで能力が伸びていくと思う	60.0%	70.0%	10.0%
(31) だれでも「計画を立て・実行し・振り返る」能力があると思う	40.0%	50.0%	10.0%
(32) 何かをするときはいつも、他者の意見を参考にしつつも、自ら「計画を立て・実行し・振り返る」ようにしている	30.0%	30.0%	0.0%

(3)職親プロジェクトの認知

職親プロジェクトへの認知度は、プログラム前後で大きく向上した。また、職親企業への信頼も大きく向上し、プログラム終了後には参加者のほぼ全員(91%)が「職親企業は身近な存在、信頼できる存在」と回答している。毎月生徒に配布している OMOIYARI レター(※1)で職親プロジェクトの周知をしたことや、生徒は期間中2回の仕事フォーラムで職親企業の方々の想いを聞いたり、座談会でコミュニケーションをとるなど、生徒の今に寄り添った活動により、認知度や信頼感を高めたと考える。

【加古川学園 5 期 プレアンケート/ポストアンケート 比較】



参考

※1 OMOIYARI レター



2. 学習支援

(1) 診断テスト結果比較

プログラム前後で同一の学力診断テストを実施し、プレテスト比較を実施。

小4相当のテストで、算数・数学は基礎的な計算を、国語は基本的な文法と200字程度の本文読解、小4相当の漢字の読み書きを出題している。

【和泉 2 期】

算数・数学では、プレテストで高得点の生徒については大幅な時間短縮が、プレテストの点数が低かった生徒については特に点数での良い変化が見られた。平均で+4 点、7 分の時間短縮となった。4番の生徒は、プレテストにてかけ算の筆算では繰り上がりの計算ができず、わり算の筆算はすべてできていなかった。しかしF教材(小6相当)まで学習をし、ポストテストでは計算ミスはあったもののすべての単元で正解できていた。国語については、ポストテストで2名が満点、残りの1名についても点数が良化した。

	算数・数学						国語					
	プレテスト結果			ポストテスト結果			プレテスト結果			ポストテスト結果		
	点数 (60点満点)	時間(分)	点数 (60点満点)	時間(分)	点数 (60点満点)	時間(分)	点数 (100点満点)	時間(分)	点数 (100点満点)	時間(分)	点数 (100点満点)	時間(分)
1	54	3					100	7				
2	58	14	55	-3	5	-9	99	9	100	+1	4.5	-5
3	53	14	56	+3	5	-9	99	7	100	+1	4	-3
4	43	8	56	+13	5	-3	95	10	96	+1	6	-4
平均	52点	10分	56点	+4	5分	-7	98点	8分	99点	+1	5分	-4

※生徒1名は出院のため、ポストテストを実施できなかった。

【加古川 5 期】

算数・数学では、ポストテストで4名が満点、全員がプレテスト以上の点数となった。また時間についても平均で5分短縮と良化している。内容についても、繰り上がりや繰り下がりやメモ書きをしていた生徒が、書かずに計算できるようになるなど、頭の使い方にも成長が見られた。国語については、8名が満点。漢字については、プレテストではミスが目立つものの、ポストテストでは問題文の読み違いと思われる1名のミス以外、全員が正解をしていた。

	算数・数学						国語					
	プレテスト結果			ポストテスト結果			プレテスト結果			ポストテスト結果		
	点数 (60点満点)	時間(分)	点数 (60点満点)	時間(分)	点数 (60点満点)	時間(分)	点数 (100点満点)	時間(分)	点数 (100点満点)	時間(分)	点数 (100点満点)	時間(分)
1	59	10	59	0	8	-2	96	8	99	+3	5	-3
2	53	16	60	+7	10	-6	96	12	100	+4	5	-7
3	48	15	59	+11	6	-9	90	11	100	+10	6	-5
4	57	8	59	+2	8	0	93	14	100	+7	13	-1
5	58	11	60	+2	7	-4	92	9	100	+8	10	+1
6	53	20	60	+7	15	-5	96	14	100	+4	8	-6
7	56	20	58	+2	13	-7	96	17	99	+3	12	-5
8	53	15	57	+4	6	-9	94	15	76	-18	11	-4
9	59	11	60	+1	7	-4	98	15	100	+2	9	-6
10	58	11	58	0	9	-2	100	8	100	0	6	-2
11	50	12	59	+9	9	-3	100	14	100	0	10	-4
12	42	16					96	13				
平均	54点	14分	59点	+4	9分	-5	96点	13分	98点	+2	9分	-4

※生徒1名は生徒本人の都合でポストテストを実施できなかった。

(2)学習枚数と進度

- ・プログラム開始前に、学力診断テスト(プレテスト)を実施し、一人ひとりに合わせた教材から学習を開始。
 - ・全体の到達目標を数国ともに、E 教材(小5相当)としている。
 - ・週1回90分の教室での学習と、他6日間は自室で1時間ほどの宿題を実施。
- 6か月のプログラムで、1人の少年がおおよそ180時間ほどを公文式学習にあてている。

【和泉2期】

- ・算数・数学では全員が到達目標(小5相当)を達成。
- ・寮の先生との連携を強めることで、宿題の実施について、かなりの改善が見られた結果、昨年度の1期と比べて学習枚数は300枚ほど増加した。

事例:和2-2

算数・数学で、小2相当のひき算の筆算から学習を開始。わり算、分数、正負の数、方程式を学び、最終的には二次関数などを含む中3相当まで学習を進めることができた。数国合わせて2000枚以上のプリントを学習、1日あたり平均で13.3枚の学習を毎日続けた。学習の様子も、自分で理解しようと強い探求性を見せてくれていた。また、修了式では「学習開始前は学校にも通わず、勉強は嫌い、何が楽しいかわからなかったが、公文式学習を通して数学が1番好きな科目になった」と話してくれた。

算数・数学			小学校レベル								中学校レベル			高校～			
生徒番号	学習枚数	2A	1けた+1けた	たし算・ひき算	加減の筆算	かけ算・わり算	乗除の筆算	分数加減乗除	四則混合	正負の計算 一次方程式	連立方程式	二次関数	因数分解 二次方程式	高次関数、分 数関数、無理 関数、指数関	微積分		
2期	2-1 1070																
	2-2 1225																
	2-3 1035																
	2-4 1135																
全ての期 平均学習枚数		960	↑全体目標レベル														
国語			小学校レベル								中学校レベル			高校～			
生徒番号	学習枚数	2A	主語・述語 修飾語	文末表現 SW1H	複文の 理解と構成	抽象的語彙 文と文の関係	包括的解釈	長文読解(縮約学習)	古文	漢文	具体と抽象 批評文						
2期	2-1 735																
	2-2 1165																
	2-3 755																
	2-4 1070																
全ての期 平均学習枚数		848	↑全体目標レベル														

【加古川 5 期】

・算数・数学では全員が到達目標(小5相当)を達成。12 名中 3 名が高校課程(因数分解など)に到達。

事例:加古川 5-10

国語で、小4相当の内容から学習を開始、高校課程(古文)に到達。6 か月で 2000 枚以上学習をした。数国合わせて 4000 枚以上学習し、1 日平均 22.6 枚の学習を毎日続けた。自己採点を始めると、自分でなぜ間違えたのかをメモし、同じミスを繰り返さないような工夫を自分から行った。また、修了式では「寮の先生、キズキの先生など、困ったときに助けてくれる人がいるありがたさを知った」と話してくれた。

算数・数学			小学校レベル								中学校レベル				高校～													
			1けた+1けた	たし算・ひき算		加減の筆算		かけ算・わり算		乗除の筆算		分数加減乗除		四則混合		正負の計算 一次方程式		連立方程式		二次関数		因数分解 二次方程式		高次関数、分 数関数、無理 関数、指数関		微積分		
生徒番号 学習枚数			2A	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L													
5期	5-1	1480																										
	5-2	1545																										
	5-3	1380																										
	5-4	1480																										
	5-5	1220																										
	5-6	1460																										
	5-7	810																										
	5-8	1185																										
	5-9	1245																										
	5-10	1755																										
	5-11	1600																										
	5-12	1070																										
生徒番号 学習枚数			2A	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L													
全ての期 平均学習枚数			1312	1けた+1けた	たし算・ひき算		加減の筆算		かけ算・わり算		乗除の筆算		分数加減乗除		四則混合		正負の計算 一次方程式		連立方程式		二次関数		因数分解 二次方程式		高次関数、分 数関数、無理 関数、指数関		微積分	

国語			小学校レベル								中学校レベル				高校～											
			主語・述語 修飾語		文末表現 SW1H		複文の 理解と構成		抽象的語彙 文と文の関係		包括的解釈		長文読解(縮約学習)				古文		漢文		具体と抽象 批評文					
生徒番号 学習枚数			2A	A1	A2	B1	B2	C1	C2	D1	D2	E1	E2	F1	F2	G1	G2	H1	H2	I1	I2	J	K	L		
5期	5-1	1800																								
	5-2	1950																								
	5-3	1500																								
	5-4	1565																								
	5-5	1570																								
	5-6	1165																								
	5-7	715																								
	5-8	1005																								
	5-9	875																								
	5-10	2315																								
	5-11	1470																								
	5-12	485																								
生徒番号 学習枚数			2A	A1	A2	B1	B2	C1	C2	D1	D2	E1	E2	F1	F2	G1	G2	H1	H2	I1	I2	J	K	L		
全ての期 平均学習枚数			1310			主語・述語 修飾語		文末表現 SW1H		複文の 理解と構成		抽象的語彙 文と文の関係		包括的解釈		長文読解(縮約学習)				古文		漢文		具体と抽象 批評文		

以上